

令和6年2月8日（木） 学校保健委員会 記録

各校医から

〈内科〉

- ・本校だけでなく、東京都に言えることだが、身長が高く体重が低い、細身の傾向がある。これは、『早起き・朝ごはん』の食育の影響が考えられる。新型コロナウイルス感染症の流行で、運動不足や間食習慣による3・4・5年生の肥満増加が心配されたが、大丈夫であったようだ。
- ・何年か前から整形外科検診が始まったが、関節の病気などが見つかることがある。
- ・アトピー性皮膚炎は、この4、5年で激減した。幼児期からの早い治療開始で、コントロールできている。



〈眼科〉

- ・コロナでタブレット学習が増え、近視の問題が大きくなった。人生100年の中では、軽い近視は人生の後半には有益なこともある。しかし、強い近視は、中年期に黄斑変性症や緑内障の問題をもたらすので、小学生のうちに強い近視にならないようにする必要がある。
- ・近視には、眼軸の長さも関係するので、検査では目玉の大きさも測っている。アトロピン（目薬）やオルソケラトロジー（就寝中にコンタクトレンズを装着し、角膜を押しつぶすようなもの）の治療を検討する。
- ・遠近両用レンズの使用や、赤い光を一日5分間見ることによって、近視進行予防効果があるとされ、期待されている。
- ・小学生でできることとして、一日2時間、太陽の光を浴びることで近視進行抑制効果がある。



〈耳鼻科〉

- ・花粉症の季節。7歳から12歳の子供用内服薬があるが、体重と薬量について不安に思われる保護者もいる。主治医と相談してほしい。
- ・減感作療法は長期間になるが、有効性は高い。
- ・CO2レーザーを鼻粘膜に当てる治療法は、スギ花粉症に効果がある。
- ・喘息薬だったゾレアが花粉症適応となった。1本1万円程で、月1～2回注射する必要があるが、有効である。



〈歯科〉

- ・近頃はむし歯のある子は少ないのだが、むし歯のない子は全くない、むし歯のある子はたくさんある、というように偏りが見られる。生活習慣や文化の違いなのかもしれない。
- ・学校で、忘れ物が多いとか、保護者に子への関心があるとか、むし歯の多い子どもにそのサインが見られないか。
- ・5、6年生では仕上げみがきをしなくなる → 歯垢が増える。6年生で塾の宿題をやって就寝が遅くなり、歯みがきがおろそかになっていく。
- ・受診勧告の回収率が気になる。



〈薬剤師〉

- ・給食室衛生検査は学期に一回行っている。ほぼ問題はないが、皿の傷に汚れが残ると菌が増加してしまうので、調理師に伝えている。
- ・教室環境検査は寒い時期に行っており、換気できているかどうかも見ている。
- ・昨年度は、照度は問題なし、騒音は工事で基準値を少し上回り、CO2も基準値を少し上回った。換気に気をつけてほしい。

